

大阪精神保健福祉士協会事務局

大阪市中央区谷町7-4-15大阪社会福祉会館内

TEL/FAX:06-6764-7839

## スーパービジョンこれから普及プロジェクト

### 「これまでの道のりと、これからのさらなる普及に向けて」

昨年11月28日、2015年度第一回スーパーバイザー養成講座が開催され、参加者26名に修了証が交付されました。現在修了証が交付された方に大阪精神保健福祉士協会のスーパーバイザー（SVR）としての登録が進んでいます。そして、今号にはスーパーバイザーの募集案内を同封しています。今春以降、当協会として2回目の個別スーパービジョンの取り組みを始めます。

そこで、改めて「スーパービジョンこれから普及プロジェクト」（これプロ）の経緯を振り返ることにします。当協会では、2013年度総会においてスーパービジョン（SV）普及に向けて①SVRの養成、②SVビューローの設置に向けて取り組むことを決定しました。まず取り組んだことは、パイロット事業として個別SVの実践とモニタリングです。説明会を開催し、8組16名に約6ヶ月間個別SVを実践していただき、中間と最終の2回、簡単なレポートを作成しモニタリング会を実施しました。

当協会が取り組むSVは、『精神保健・医療・福祉等の領域で、5年以上のソーシャルワークの実践経験を有するPSW（SVR）が、1年以上の経験を有するPSW（SVE）の、対人援助職としての学びを、互いの契約に基づき援助する過程』と定義しています。そして、目的を「SVRがSVEの気づきを大切にしたい支持的なかわりをするることにより、SVR-SVEが互いに対人援助専門職として成長していくこと」としています。この目的は、OJTや事例検討とは異なっており、違いを踏まえた実践がこの取り組みでは重要なこととして挙げています。パイロット事業を通じて出てきたSVRとSVEの双方の意見は、SVR養成講座の検討につながるものとなりました。ここまでの取り組みについて、昨年福島で開催された第14回日本精神保健福祉士学会学術集会で報告しました。この内容の詳細はホームページに資料を掲載していますので、参照してください。

また、SV普及の取り組みとして全会員を対象に2015年3月に研修会を開催した。聖学院大学の田村綾子先生からSVについてわかりやすく解説していただきました。

2015年度に入り、前年度のパイロット事業の参加者にも会議に参加していただき、SVR養成講座の企画を検討しています。本事業におけるSVの定義や、個別SVの実践を踏まえた検討を重ね、SVR養成講座の開催につながりました。SVRとSVE、会員と担当理事ともに作り上げているのが本事業の特徴です。これからも当協会らしい、大阪らしいSVシステムの構築に向けて、SVの普及を進めていきます。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

以下に、第一回スーパーバイザー養成講座参加者の感想を掲載します。当日の雰囲気、参加者としての率直な気持ちが書かれています。ぜひ参加して、一緒に取り組みませんか。



## これプロスーパーバイザー養成講座に参加して

(堺市南区障害者基幹相談支援センター 溝口 大輔)

2015 年度第一回スーパーバイザー養成講座に参加させていただきました。参加しようと思った動機は、私は現在、堺市南区にある障害者基幹相談支援センターに所属をしていますが、センターの相談窓口の特質上、精神障害の方だけではなく、知的障害や身体障害の方、難病の方もご相談に来られます。精神の方に携わってきた職員だけではなく、様々な職歴のある職員の方と一緒に仕事をさせていただく中で、共通言語というか、視点や当事者の捉え方、距離の取り方など、時に支援の手法が共感できないこともあり、自身の支援の有り様に「これでいいのだろうか」といった考えに悩むこともあります。こういった思いから、自身のソーシャルワークに対するの価値や、専門性についてあらためて見直す機会になればと思い、今回の申し込みに至りました。



研修午前中は、「スーパービジョン（以下、SV）の基礎理論」「契約等実施準備についての説明」の講座でした。SVの基本的な考え方として、業務遂行上必要な事柄についての教育訓練としての職場におけるOJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）とは異なり、教える立場のスーパーバイザー（以下、SVR）も教えられる立場のスーパーバイジー（以下、SVE）も、専門職としての技術や知識、態度を言語化するSVを通して相互に関係し、成長する学びの過程の過程をたどる、ということでした。また、具体的なSVの流れとしては、職場外でSV関係を構築する場合、SVR-SVE

双方の波長合わせをした上で、契約内容や実施方法、費用、解除についての共有を行い、個別事例を一般化（論理化）、言語化し実施、「即戦力よりも可能性を育てることを意識しながら」評価し、SVR-SVEの関係性を客観視できるよう終結することを確認しました。

研修午後は昨年度にSVこれから普及プロジェクトに参加し、実際にSVをされた8組16名の方のうち、3名の方の実践報告を聞かせていただいた。実施場所や時間、波長合わせから具体的な進め方など、試行錯誤やそれぞれの方の工夫の中で、様々な展開をみせ、「最初は不安や迷いもあったが、結果的にやってみてよかった」といった心からのものであると率直に感じられる意見も聞かせていただいた。うち何組かは未だにSVが継続しているということも聞き、職場以外の方との繰り返しSVをすることにより、日々の仕事の中での当事者に対しての自身のものの見方や考え方、同僚に対しての接し方や同僚や家族からのSVEに対しての受け止め方などにも変化が及んでいることが感じられました。研修最後では演習という形で、SVの波長合わせの際のロールプレイ、SVについて講座参加者が考えることを意見交換しました。副業規定のこと、SVRとして今の自分自身でSVEを受け止めていけるのだろうか、という不安や、今後SVを通してPSWとしてどのように仕事をしていくのかといった意見も出ました。様々な経験年数の層の方たちと意見交換をできたことは本当に貴重で、「今後もこういった話し合いを繰り返していきたい」と率直に思えました。

2年後に日本精神保健福祉士協会全国大会・学術集会大阪大会をひかえ、この大阪で、いま、ここでそれぞれのPSWが未来や将来を心に抱き、何を思うのか。SVという経験を通して、それぞれが成長できる可能性を持った非常に興味深い取り組みであると今回の養成講座に参加し、思うことのできた1日でした。



第一回SVR養成講座を終えて、新たにたくさんのご意見をいただきました。その中で私が注目したのは、それぞれの職場において、いかにPSWを育てていくのかという意見です。PSWの資質向上に向けた取り組みとして、皆様とともに盛り上げていきましょう。

(文責：大阪人間科学大学 富澤宏輔)